



長崎外国語大学・短期大学

チャペル通信

編集・発行
長崎外国語大学
宗教委員会

〒851-2196
長崎市横尾3-15-1
TEL 095(840)2000
FAX 095(840)2001

VIA VERITS VITA

「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネによる福音書 14章6節)

チャペルアワー奨励から

グルグルしないで 生きてゆく

日本基督教団 長崎滑石教会 牧師 星野 江理香

このように、わたしたちは信仰によつて義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによつて神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によつて導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。

ローマの信徒への手紙 5章1、2節

今度の日曜日は10月31日です。この日が何の日なのか、皆様はおそらくご存知のはずですね。…ちょうど同じ日に大学祭が行なわれるので、その準備に追われている方は「当然、学祭だ」と反応してしまうかも知れませんが、まさか「も

ちろん、ハロウィンでしょう？」という人は、いみじくもキリスト教主義学校である、この長崎外国語大学の皆さんの中にはいらっしゃらないことだろうと思います。ジャック・オー・ランタンがスカーパーやコンピニにも飾られている昨

今、一般の方ならそう思う人がいても不思議ではありませんが、10月31日は、とくにプロテスタント、つまり私たち福音主義教会のキリスト者には大切にされてきた「宗教改革記念日」です。

そして、この「宗教改革記念日」の中心的なテーマこそは、ほかでもない「信仰」の問題です。先ほど朗読していただいた聖書には「わたしたちは信仰によつて義とされた」という言葉がありました。いわゆる「信仰義認」ということです。その詳しい意味は小西先生に教えていただいていてご存知と思いますが、そのようにキリストの教会では「信仰」ということを大切に考えます。またそれゆえに、聖書には「信仰」という言葉がたくさん出てま

います。実は「信仰」とは、きわめてキリスト教的な用語です。私たち日本人が昔から親しんできたのは「信仰」より、むしろ「信心」という言葉でした。おそらく今でも、他の宗教の方々の間では「信心が足りない」「信

心に篤い」という風に日常的に使われているのではないかと思います。…では「信心」と「信仰」は、いったいどこが違うのでしょうか。

「信仰」とは、「信じる」＋「仰ぐ」と書きます。そのベクトルは「仰ぐ」対象に向かつて、外へ外へと向けられているといえます。反対に、「信じる心」と書く「信心」は、「信じ込む」「思い込む」という主観の中に向かいます。つまり、自分の内側へ向かっていく：入り込んでいくベクトルの線上にあるのが「信心」です。そういう意味で「信心」は、自分の心の奥との対話や自分の中の欲望に打ち勝つことを目的とするタイプの宗教にはピッタリくるのだらうと思います。自分自身を精神的に育てることのみを追求するなら、それはそれで意味があることでしょ

は、どうあっても、できないからです。

一方、外側へのベクトルにある「信仰」が仰ぐもの、見つめるものは、自分の深層心理や心理状態ではなく、小さな自分を遙かに越えた、私たちの手が届かないほど上にいる御方に向けられます。私たち人間の内側に閉じ込めておくことなどできない、大きく広く、深く、時空間を超える存在；永遠そのものである真実の神に、向かっていくものなのです。

時々、どうしてもこの違いがわからず、礼拝堂でひとり自分の人生や日常のあり方を反省して、今日はよい反省ができた、自分をみつめることができた満足して帰る方がいます。「自分をみつめること」が信仰だと考えていらつしやるのです。本人がそれで満足している間はいいのかも知れませんが、いつかきつと、行き詰ってしまうだろうと心配になります。

もちろん、私たちは、時に自分をみつめることも必要です。「信心」も大切です。それを否定はしませ

ん。稀ですが、聖書にも「信心」という言葉は出てまい

ります。自分の中で、自身のある方や人生を思いめぐらすのは悪いことではありません。人の世の儚さや人間の惨めさを深く考えたり、自分の弱さや世界の苦悩について深く考えたりすることができるとしよう。しかし、それだけだと、出口のない迷路、解答の見えない問いの中をグルグルするだけで終わってしまいます。そこからどう踏み出していけばいいのかわからないまま、ただグルグルと、思想や心の中、自分の考えの中を辿って、引きこもってみたい、ニヒリズムに陥ったりして終わるのだと思います。たとえば、日本の映画や小説、アニメ等の作品の結末の多くがそうであるように、そこには結局のところ、ほんとうの「救い」が見えません。

信仰は、自分をみつめることではありませんが、それは、私たちの外側、ま



▲教会学校の生徒(小学2年生)がかいた星野の似顔絵

た上にある事実とリンクするものです。「神の愛」という事実の中へ入っていくことです。そこにこそ「救い」があります。そして、神様という事実、心の外側に向かっていく「信仰」があれば、私たちは、グルグル・ぐるぐる、自分の中で後悔や反省を繰り返して、出口の見えない疑問や困難に思い悩むことをしないで生きていくことができるのだと思います。私たちの外側に確固として存在する事実としての神様の、その救いにすべてを向けられるから、グルグルしないで生きていく歩みが与えられるのです。

(2010年10月27日)

公開講座 「創世記を読む」

受講生の声

大野先生の旧約聖書講座



大野 恵正 客員教授

大野先生の旧約聖書講座を今回も受講出来ました。

辻本 元子

「ペレ」の挨拶の後に続く祝福された90分を共有させていただき感謝でした。

また、この講座の為に労を取って下さったスタッフの方々へお礼申し上げます。

先生の講義を通して、旧約の時代に生きた人々が現在を生きる私に多くを語りかけて来ました。アダムとイブ物語では、私の中に内在している問題が炙り出され胸がキリキリと痛み、アブラハム物語では、神に絶対的信頼を置いて生きた姿に感動を覚えました。私の

信仰を問い直す良い機会でもありました。

これまで幾度か神と真剣に対峙しなければならぬ時がありました。戦後外地からの引き上げ後にどん底の貧困を経験し、その中で9ヶ月の弟が栄養失調で神に召されました。子どもと共に礼拝へ急いでいる途中で交通事故に合い、長期入院を余儀なくされました。背負いきれない問題を提起された私は神から気持ちに離れました。しかし、時を経て再び祝福のネットワークへと導き入れて下さいました。『神は私達の創造者であるが故に、保持

し、配慮し、裁く』と示されました。豊かなメッセー
ジをありがとうございます。

(教団 長崎古町教会信徒)

鳥巢 洋次郎

「本日もおいでくださり
ありがとうございます。」

受付で歓迎され、「ペレー」
の挨拶で大野先生の「創世
記を読む」は始まる。開講
の挨拶「ペレー（驚きに満
ちた出来事）」に、挨拶の
言葉は「シャローム」しか
知らなかった私は「驚か」
されました。創世記はも
より、旧約聖書を学ぶのは
大学生時代に授業の単位
を得るために受講して以来、
実に30数年ぶりのこと。就

職して社会人となり、結婚
して家庭を持ち、多くの経
験を積み重ねてきた今だか
らこそ、創世記が私に伝え
たいことがよく解ったと思
います。また、仕事が終わっ
てから無理なく行ける手ご
ろさもあり、毎回楽しく最
後まで受講することが出来
ました。受付から終講まで、

エアコンの温度調節、若か
りし頃の大野先生が撮影し
たイスラエルとパレスティ
ナのアナログ写真をデジタ
ル化して、スクリーンいつ
ぱいにして私達に見せてく
れたことなどスタッフの方
たちにも感謝です。おかげ
で素顔の現地の様子が伝わ
りました。

今回はカトリック教会に
もご案内くださり、約10名
がお話を聞く機会を与えら
れました、感謝です。今ま
さにこの世は混乱を極め、
どう進んでいったらよいか
を模索している状況にある
いま、この創世記の生き方
に私たちはもっと学ばべき
だと思えます。

(カトリック西町教会信徒)

馬場 榮一

創世記第1章3節 神は
言われた。「光あれ。」こ
うして、光があった。

私は大野先生の講義で学
ぶ前は、この光のことを物
理的な光として理解してい
ました。全て命あるものに
とって光は欠くことのでき

ない役割をもったものとし
て理解していました。しか
し、大野先生の講義では、
「光」は太陽ではないと明
言されたのです。これは「ペ
レー（驚くべきこと）」で

した。光は闇の対極にある
もの。すなわち、秩序、平和、
愛、救いといったものの総
体であると明言されたので

す。大野先生の講義で、こ
のように、つつい自分勝
手に解釈している聖書のこ
とばについて、より正しく、
深い意味を与えて頂きまし
た。これは、道を極めた方
から教えて頂くことのあり
がたさです。また、アブラ
ハムやその後継者たちのた
どった跡をご自分で歩かれ
ており、写真の形で、今回

私たちに紹介下さいました。
普通の者は立ち入ることの
できない場所の貴重な風景
を見せていただき、創世記
の世界に入り込んだ感覚を
覚えました。このたびの旧
約聖書の学びに夫婦で共に
学ばせていただいたことは、
幸いでありました。

(長崎バプテスト教会信徒)

馬場 美也子

前回に続いて今回の「創
世記を読む」を受講できた
ことを感謝いたします。

先生のご講義からはただ
知識だけではなく神様の祝
福を溢れるほどにいただき
ました。毎日が講義を超え
たメッセーじになっていた
ことに心打たれました。大
野先生の神様へのゆるぎな
い信仰、信頼、希望が基盤
にある豊かな講義でした。

たくさんのかことを学び教
えていただいた中で心に
残っているのは、「聖書の
正直さ」です。最初の人ア
ダムはもとより「信仰の
父」と尊敬されるアブラハ
ムですら過ち多い人である
ことを聖書は淡々と記して
います。「聖書は人間の弱
さを正直に描く。神の前に
隠しようがないからであ
る。」(資料頁32)その弱い
過ち多い人間に注がれる神
の愛と祝福の内に今、私た
ちも生かされていることを
感謝します。

もう一つ、アブラハムを
「もてなしと執りなしに生

オリジナル商品 長崎版 一筆箋

長崎の観光の思い出を伝えるおみやげとして、又、贈物
に添えるメッセージカードとしてご利用下さい。

 教会編 各6種類(封筒付) 定価 350円(税込)	 観光地編 各5種類 定価 300円(税込)	 坂本龍馬編 各5種類 定価 300円(税込)
--	--	---

問い合わせ先 九州印刷株式会社 〒852-8103 長崎市緑町4番5号

TEL:095-846-6844 FAX:095-846-6845 E-mail:kyushu.p@ymt.bbiq.jp

キリスト教書店ハレルヤ

〒862-0971 熊本市大江4-20-23

TEL 096-372-3503 (FAX共用)

E-mail:k-haleruya@earth.ocn.ne.jp

きる人」と教えられたことも印象的でした。旅人をもてなし、ソドムとゴモラのために必死で執りなすアブラハムから奉仕と祈りの姿を見て、そこに最良の人生があるとのメッセージに旧約の世界がとても身近に思えました。素晴らしい学びの場を与えられたことに心からの感謝を捧げます。

(長崎バプテスト教会信徒)

松尾 洋子

以前活水で行われた大野先生による「聖書と音楽」に関しての公開講座に感銘を受けたことを思い出し、今回は聖書そのものの学びであること、特に旧約聖書について学ぶことができることが私を受講へ何かせました。

新共同訳による聖書は文体としても理解し易く、大野先生の深く豊かなご研究から与えられる講義は、時にはご造詣の深い音楽や美術のことも話の端々に加えられ、ご自身が訪れて写してこられたスライドを通して

ての説明もあり、遠い旧約の時代が身近に感じられました。自由の中に身をおいた人間の状態を学び、神とノアとの契約即ち全人類との神の契約を学び、神と向き合う存在として創られた人間の在り方を学ぶことができました。最も心に残ったことは、ヨセフを通して苦難のただ中で神は、ヨセフとそして私達と常に共に居てくださり、逆境の中で人を新しく生かし成長させてくださること、神は生きて現実の中で働くお方であることを学び実感しました。まさに「ベレー」です。

終りに大野先生と小西先生を始め、お世話くださった方に心から感謝を申し上げます。

(教団 長崎古町教会信徒)

吉川 芙美子

毎火曜日、通算15回の受講がこの度終了した時、一番に感じた事は、その間のご準備と体調維持は相当に大変なことにもかかわらず大野先生は毎回まず「皆さ

ん今晚は！今日もベレー(驚き)ですネ」と溢れるような笑顔を見せて下さって、いよいよ神様の祝福の舞台幕開くと：待ち望むような想いを起させて下さったこと。そしてそれは期待通り驚きの連続でした。

日頃聖書に親しみながらも、今迄深く胸に落ちずにいた言葉、例えば：善悪の知識の木の実を食べる：とは、全てを知り意のままにしようとする人間の在り方：等。次々に咀嚼するように明確にされ、又：主なる神が園の中を歩く音：これは神が大変な事が起ったと驚愕し歩き回る：というJ資料等々新たな発見でした。そしてやはり特記すべきは天地創造の事。それは一回のビッグバンのみでなく混沌なる荒廃を神は激し、古今絶望状態の人々に新しい創造を語るもの：と教えられたことです。正にこの事は来し方の私に重なる事。希望見えぬ虚無の若い日、イエス・

キリストに出会わされたのは、時至り神が激しく息づかれた証しと想起致しました。『創世記を読む』：奥深い学びに感謝です。

(教団 長崎教会信徒)

吉田 雄之進

旧約聖書の研究に関しては第一級の方と伺っていた、その大野恵正先生の講座とあって、前年度に続いて心待ちにわくわくした気持ちで、15回無欠席で受講した。

この講座はわたしの人生に貴重な、太い道を加えて頂いた。先生のように「心の在り方」で旧約を読むことの難しさ、大切さをつくづく感じさせられました。

先生の思索深い人生経験、信仰に裏打ちされた「心」で創世記を分析されると目から鱗が落ちたように、すんなりと私の心は包まれました。「旧約」は誠に見事な信仰文学書で、意味深長な表現には驚嘆。

聖書は簡潔な表現で綴られていますから紙背に散りばめられている豊かな言葉

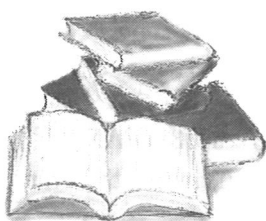
を見出して読むためには先生のような人生探求に長けた方の解説が必要でありましょう。

今回の講座は言葉による伝授だけでなく62頁に及ぶ行き届いた解説書を戴き、更に現地探訪の貴重なフィルムも拝見しました。

ユダヤでは「ベレー」が朝の挨拶、お早うございますで、このヘブライ語は「驚くべきことをなさった、今日もすばらしいよ」Wonderful(素晴らしい)の

源語であることを教わりましたが、今回の講義はワンダフルにつきます。感謝！

(教団 長崎古町教会信徒)



映画紹介

『わが命つきるとも』

(A Man For All Seasons)

F・ジンネマン監督、1966年米
コロンビア制作

山川 欣也

コスチュームプレイ、つまり時代(歴史)劇映画である。主人公はトマス・モア(Thomas More)、『ユートピア(Utopia)』の作者として知られている。当方にはエラスムスの「連れ」としての方が馴染み深い。ヘンリー8世の統治下で、その地位を罷免されたウルジーから大法官を引き継ぎ就任、しかしその彼が早々にその職を辞することになる。その罷免と辞任を生んだ問題の種が物語のプロンプターとして映画は展開される。周知のように、ヘンリー

8世の時代、最大の歴史的ドラマの一つが彼の離婚(婚姻)問題であることは論を俟たない。彼は亡くなった兄の未亡人キャサリンと喪中に関わらずゴリ押し結婚したが、その彼女の侍女アン・ブーリンと愛人関係に陥り、彼女と結婚するためにはキャサリンと離婚しようとした(彼は6度結婚、バツ5)。これは無理難題で、なぜなら国王は熱心なカトリック教徒だからであり(カトリック信者には離婚は認められておらず)、国王もこれを十分了知していたはず

である。しかし、彼はこの離婚と結婚を教皇に認めさせる画策をウルジーやモアを介して行おうとし、結局はローマ教会から離脱、イギリス国教会を設立しその頂点に立つ。また野望、謀計、奸策の渦中で、やはり熱心な信仰者であったモアはこの問題に如何なる言動をもつて対処したのか。モアはいわゆるルネサンス期の人文主義者として名高く、神や人間の本質への理解と実践に立ち返ることを求めかつその点で時代に縛られず自由な思考を行うこともできた、そうした知識人の一人であった。故に彼の言動は耳目を集め、国王にとつても、権威としてきわめて尊重されたのである。

丹念にしかも淡々と、映画は描かれる。神学的論考は保留するが、実はこれは王位継承法、国王至上法に対する「信念」、「法」、「神」をめぐるモアの「正義」の映画なのだともることができる。つまり、もっとザックリとある視点から図式的

に言えば、これは「権力」対「個人」を描いた映画だということである。冷戦期のアメリカ社会を勉強している某には、どうもこうしたベクトルから逃れることは不可能なようである。監督がオーストリア出身のユダヤ系移民で、『真昼の決闘』や『尼僧物語』のF・ジンネマン(Fred Zinnemann)となれば尚更そう考えられる。離婚(婚姻)問題の映画だとはいえ簡単な話ではないのだが、今少しここではかかる視角のみに焦点を絞ってみる。

終幕ちかく、メインイベントと言っている、モアに対する「王位継承(つまり婚姻)」を認めるか否かの審問の場面があり、まさにこれは米国下院

非常活動委員会の公聴会のようにみえる。公聴会に喚問された映画人たちの多くは、「共産党員であったのか、なかったか」の

質問に対し、法的に認められた黙秘権を行使したが、議会侮辱罪の有罪判決をうけた。モアもまた詰問は承認しがたく沈黙で堪えていたが、反逆罪とされた。

虎の威を借り詭弁を弄する人々に対し、愚直なまでに法で抗する他に市民の選択の余地はない。にもかかわらず、『信念』を押しつぶされる結末は不条理としか言いようがない。一方、『信念』など持たず虚偽で塗り固めて大法官にまで出世したリッチ(モアの弟子でもあった)について、「ベッドの上で死んだ」とナレーショ

(教授・アメリカ研究



2010年度 チャペルアワー等の記録

チャペルアワーは 毎週水曜日 午後12:40~1:00

(春学期)

回	月 日	奨 励 題	聖 書	奨 励 者
宗教科 1	4月9日	求 め な さ い	マタイ 7.7,8	小西 哲郎 宗教主任 (長崎学院)
2	4月14日	怒ったことある?	マタイ 21.12-4	原 和人 牧師 (長崎銀屋町教会)
3	4月21日	クリスチャンとして生きる	マルコ 1.14,5	金 珍熙(キム ジンヒ)牧師(長崎馬町教会)
4	4月28日	新しい人になれる	コロサイ 3.7-16	森島 豊 牧師 (長崎平和記念教会)
5	5月12日	柔 和 に 生 き る	出エジプト 20.4-6	三浦 功 牧師 (ナザレン 長崎教会)
6	5月19日	悟 り な き 罪	マタイ 11.20-4	星野 江理香 牧師 (長崎滑石教会)
7	5月26日	死 ん で 生 き る	マタイ 13.31,2	金 珍熙(キム ジンヒ)牧師(長崎馬町教会)
8	6月2日	自分の仕事に励みなさい	一テサロニケ 4.1-12	堀尾 憲孝 司祭 (長崎聖三一教会)
9	6月9日	神から生まれた者	一ヨハネ 5.1-4	大藪 朝祥 牧師 (長崎飽之浦教会)
10	6月16日	どうしても知って欲しいこと	使徒 26.20-3	蔦田 善教 牧師(インマヌエル 長崎キリスト教会)
11	6月23日	悔 い 改 め る	マルコ 1.14,5	金 珍熙(キム ジンヒ)牧師(長崎馬町教会)
12	6月30日	愛することと大切にすること	一コリント 13.1-7,13	高橋 勇造 理事 (長崎学院)
13	7月7日	私 た ち は 一 つ	一コリント 12.18-26	三浦 功 牧師 (ナザレン 長崎教会)
14	7月14日	神の正義 人の正義	マタイ 12.9-21	星野 江理香 牧師 (長崎滑石教会)
15	7月21日	言 と 私 た ち	ヨハネ 1.1-5	金 珍熙(キム ジンヒ)牧師 (長崎馬町教会)

(秋学期)

回	月 日	奨 励 題	聖 書	奨 励 者
1	9月29日	無 責 任	創世記 3.1-19	原 和人 牧師 (長崎銀屋町教会)
2	10月6日	新しいつながり	マタイ 12.46-50	金 珍熙(キム ジンヒ)牧師 (長崎馬町教会)
3	10月13日	新たな力を得る	イザヤ 40.28-31	森島 豊 牧師 (長崎平和記念教会)
4	10月20日	見つかった喜び	ルカ 15.4-6	三浦 功 牧師 (ナザレン 長崎教会)
5	10月27日	グルグルしないで生きていく	ローマ 5.1-2	星野 江理香 牧師 (長崎滑石教会)
6	11月10日	壁を越えて通じるもの	一ヨハネ 4.7,8	金 珍熙(キム ジンヒ)牧師 (長崎馬町教会)
7	11月17日	自分のために生きる	ローマ 14.7-9	大藪 朝祥 牧師 (長崎飽之浦教会)
8	11月24日	罪 と 責 任	創世記 3.1-13	堀尾 憲孝 司祭 (長崎聖三一教会)
9	12月1日	偶然から確信へ	詩編 8.2-10	金 珍熙(キム ジンヒ)牧師 (長崎馬町教会)
10	12月8日	神からの贈り物	マタイ 2.1-12	濱田 道明 牧師 (ルーテル 長崎教会)
クリスマス	12月16日	私 た ち の 間 に	ヨハネ 1.1-5,14	G.W. パークレー学長 (西南学院大学)
11	1月12日	変わりのない慰め	ヘブライ 13.8	金 珍熙(キム ジンヒ)牧師 (長崎馬町教会)
12	1月19日	勇気を だしなさい	ハガイ 2.3-5	小西 哲郎 宗教主任 (長崎学院)

編集後記

『チャペル通信』第20号をおとけします。ご寄稿いただいたみなさまに感謝もうしあげます。

秋学期に宗教委員会では、出島交流会館を会場に、全15回の公開講座「創世記を読む」を開講しました(9月28日、10月5日、10月12日、10月19日、10月26日、11月2日、11月9日、11月16日、11月23日、11月30日、12月7日、12月14日、12月21日、12月28日、1月4日)。大野恵正客員教授の熱のこもった授業をとおして平均58名の受講生が熱心に聖書をまなび、またよきまじわりのときをもち、好評のうちに全日程をおえることができました。2、4面はその受講生の感想です。受講生のみなさま、大野先生、そして旧約聖書講座実行委員会(古賀貞夫・高橋勇造・春海賢一・三浦功・吉田雄之進)のかたがたに、ここから感謝し、ご報告にかえさせていただきます。(こにし てつろう)